

八丈やろごんプロジェクト（2年目/令和3年度）

【地域の背景】『八丈町の基本構想基本計画』

- ・「ともに支えあうあたたかい町」多様性を尊重し、協働することで「共創」の未来を目指す。
- ・四つの柱「①住民が主役、②島を生かす、③歴史と文化を生かす、④クリーンアイランドを目指す」

『事業運営への助言』
東京都教育委員会
産業技術大学院大学

『地域人材の紹介』
八丈町企画財政課

『事業広報』
八丈町役場「広報はちじょう」
八丈支庁「支庁の風」、Twitter

島の豊富な資源を活用した地域探究学習を通して、生徒のキャリア教育を推進する。

島に戻ってきて
島を支える生徒
島の外から島の良さを
発信する生徒

コンソーシアム

管理：八高、地域協働学習実施支援員

【生徒の背景】『八丈高等学校グランドデザイン』より

- ・学力が多様であり、卒業後の進路も多様。
- ・協調性があり、まじめで素直な生徒が多いものの、目標に向かって切磋琢磨し主体的に行動することが不得意な生徒も存在

【学校の背景】

- ・全日制課程の普通科・園芸科・家政科、定時制課程を設置する八丈島で唯一の高校
- ・青島特別支援学校八丈分教室が設置
- ・島の人口減に伴って生徒数も減少

『授業専門領域補助』
八丈町教育委員会
エコツアーガイド協会
ビジターセンター

『カリキュラム・
授業実践への助言』
カリキュラム開発等専門家
文教大学

3年間の目標(共通言語)

気づく・深める・伝える

『令和3年度の目標』

- ①「島民会議」の開発
- ②地域協働学習実施支援員との連携
- ③校内体制の確立

『取組状況と成果』

①八文学Ⅰ・Ⅱの授業実践と「島民会議」の開催

- ・個別探究を通じたキャリア教育→「進路×探究」で自分を振り返り、進路を確立する。
- ・島民会議生徒実行委員会の発足→職員研修連絡会、コンソーシアム協議会など、生徒が運営に関わりながら、島民会議や授業を進める。
- ・島民会議の成果と町の変化→島民会議や授業を通して、八高や八高生に対する理解を深める。
- ・ICTを活用した地域探究の開発→八丈島紹介動画やフェノロジーカレンダーを作成する。
- ・1、2年生合同授業→3回開催。2年生が指導・助言を行うなど、学年を横断した授業を行う。
- ・「八文学」を中心とした、教科横断的な探究授業の開発→「気づく・深める・伝える」を共通言語とした探究学習をすることで、探究のサイクルを円滑に実施する。

②地域協働学習支援員の成果

- ・つなげる→地域の人材を発掘し紹介することで、地域と生徒、学校をつなげる。
- ・主体となる→地域が主体となることで、持続可能な「地域学習」を確立する。
- ・新たな価値を創造する→八丈町や八丈高校の新しい価値を発掘し、相互の理解を深める。

③コンソーシアム協議会を中心としたPDCAサイクル。

令和3年

7月島民会議に向けた話し合い

11月プレ島民会議での事前確認

12月『島民会議』を生徒と島民で開催

2月来年度に向けた話し合い

『今後の課題』

①カリキュラム開発

- ・小学校3校、中学校3校と連携した系統的な「地域学習」の検討と開発
- ・「八文学Ⅲ」授業の開発
- ・「気づく・深める・伝える」を基礎とした探究的な学びを教科等横断的に実践
- ・「多摩島嶼学習発表会」の開催、探究フォーラム発表、全国サミット発表
- ・学習成果物の島内、島外への発信
- ・第2回島民会議の開催

②地域協働学習支援員を中心とした地域協働体制の確立

- ・コンソーシアムや運営指導委員会を抜本的な見直し
- ・地域協働4年目に向けた「地域」が主体となる「八文学」の確立

③校内体制

- ・併合科、1～3年が連携したキャリア教育
- ・教員の資質・能力向上のための研修会の定期開催